

新潟県 2月議会での質問・知事答弁

質問①

先月のJR西日本による、大糸線についての発表は、あたかも大糸線の廃止を視野に入れた検討が始まるように報じられ、糸魚川市をはじめ沿線自治体に大きな衝撃を与えた。取材対応を通じてJR西日本の意図が表れたのではないかとの疑念を抱かざるを得ない状況であり、地元は路線の今後への不安を募らせているが、県は一連の報道をどのように受け止めたのか伺う。また、県は糸魚川市をバックアップし、沿線自治体とともに路線の維持に向けた取組を進めるべきと考えるが、知事の所見を伺う。

答弁①

次に、地域公共交通の課題についてお答えします。

まず、大糸線に関する一連の報道についてであります。

大糸線のあり方については、長野県とも、両県一丸となって取り組んでいくことで一致しており、これまで同様、糸魚川市をはじめ沿線自治体とともに、沿線の活性化及び持続可能な路線の実現に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。

なお、一連の報道への受け止めですが、今回のあり方検討は、「廃止」を議論する場ではないものと認識しております。

質問②

地域公共交通は、住み続けられる地域であるために必要なものであり、交通事業者の経営を理由として路線が廃止されるなど、地域が一方向的に切り捨てられるようなことはあってはならない。国は検討会を立ち上げ、地方鉄道のあり方に関する議論を始めたが、鉄道事業者の意向が優先されるのではなく、地域の実情を十分に反映させたかたちで議論が進むよう、国に働き掛けを行う必要があると考えるが、知事の所見を伺う。

答弁②

次に、地方鉄道のあり方に関する議論についてであります。

現行の鉄道事業法の手続きでは、鉄道事業者の届出のみで事業の廃止が可能となりますが、経営を理由とした事業者の意向だけでなく、地域の実情が反映されるよう、より公の関わりを強める方向に見直すことが必要であると認識しております。

県といたしましては、議員ご指摘の国の検討会に対して、必要な意見を述べるなど、働きかけを行ってまいりたいと考えております。

質問③

電気、郵便、通信等の事業は、「あまねく公平に、経済的に利用可能で」というユニバーサルサービスの考え方に基づき、不採算であっても、社会的に必要なサービスの供給が制度的に担保されている。こうしたユニバーサルサービスの考え方を地域公共交通に取り入れていくことについて、知事はどのように考えるか、所見を伺う。

答弁③

次に、地域公共交通におけるユニバーサルサービスの考え方についてであります。議員のご提案には、共感できる部分も多く、仮に実現可能となれば、地域公共交通が置かれている現状の改善に向けて大きな前進になるのではないかと考えております。この問題は、国レベルでの検討が不可欠なことから、先ほどお答えした国の検討会などを通じて、問題提起を行ってまいりたいと考えております。

質問④

「JR 西日本が大糸線の廃止を検討」とのニュースがあったが、この区間を「えちごトキめき鉄道」が譲り受け、妙高、白馬の2大スキーリゾートを結ぶ観光ルートを構築すれば、アフターコロナに想定されるインバウンド需要や広域観光にも効果的であると考えているが、所見を伺う。

答弁④

次に、えちごトキめき鉄道による大糸線の活用についてであります。大糸線のあり方については、沿線自治体が県やJR西日本を交え、持続可能な路線の実現を目指し幅広い議論を行うこととしていることから、議員ご提案の観光ルートも検討の俎上に載せてまいりたいと考えております。一方で、大糸線を譲り受けることについては、えちごトキめき鉄道の経営体力や、沿線自治体の意向も踏まえながら、慎重に検討する必要があると考えております。なお、「大糸線の廃止を検討」との報道については、県といたしましては、そのようなことを議論する場ではないものと認識しております。